

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

セーフティネットとして、生徒にとって安全で安心な居場所であり、将来の自立や社会参画するための能力が身につくキャリア教育を充実させた学校をめざす。

1 個に応じた指導の工夫に努め、自己肯定感と自己効力感の向上を図る。

2 生徒の自己実現を支援する進路指導を推進する。

3 豊かな心や社会性を育み、自己有用感の向上を図る。

2 中期的目標

定時制の課程かつ普通科において完全単位制である唯一の学校として、多様な価値観を認め、『生徒に付けさせたい力』を全教職員で共有し、生徒の自己肯定感・自己効力感や社会に貢献する力・自己有用感を育成する学校づくりを推進する。

1 確かな学力の育成及び教員の授業力の向上

(1) 「わかる授業」「できる授業」「魅力的な授業」をめざした、授業改善に取り組み、主体的に学習する力を身に付けさせる。

ア 教科を通じて育てたいコンピテンシーを、観点別学習評価とともに生徒自身による自己評価など様々な評価の充実に向けた組織的な取組みを推進する。

イ 協働学習を軸として生徒が主体的に学びに向かう授業を展開するために組織的な取組みを推進する。

ウ 授業アンケート等を効果的に活用し、1人1台端末の活用や校内研修や公開授業など、教員の授業力向上に向けた取組みを進める。

※生徒向け学校教育自己診断における「授業は面白いと感じる」の肯定率を令和10年度までに85%以上を維持する。(R5：92% R6：86% R7：82%)

※生徒向け学校教育自己診断における「主体的に活動する時間がある」の肯定率を令和10年度までに80%以上を維持する。(R5：80% R6：76% R7：85%)

※教員向け学校教育自己診断における「コンピテンシーを意識させた授業や行事」の肯定率を令和10年度までに90%以上を維持する。(R7初：100%)

2 キャリア教育及び進路指導の充実

(1) 将来の自立や社会参加、進路実現につながるキャリア教育や進路指導を推進するため、カウンセリング及びガイダンス機能の充実に取り組む。

ア 一人ひとりの生活背景から理解し、生徒に寄り添い、支援・指導を充実させる。また、そのための生徒支援体制を充実させる。

イ 生徒一人ひとりが希望する進路実現するため、適切な進路情報を提供し、将来像を確立させる。

ウ 日本語指導の必要な生徒の対応として、日本語指導の授業を充実させるために組織的な取組みを推進する。

※生徒向け学校教育自己診断における「進路実現に向けて支援してくれる」の肯定率を令和10年度までに90%以上とする。(R5：92% R6：89% R7：87%)

※保護者向け学校教育自己診断における「教育情報を提供する努力をしている」の肯定率を令和10年度までに85%以上を維持する。(R5：63% R6：80% R7：87%)

※生徒向け学校教育自己診断における「進路や社会のルールについて考える」の肯定率を令和10年度までに90%以上を維持する。(R5：94% R6：91% R7：84%)

※教職員向け学校教育自己診断における「教育活動についてよく話し合っている」の肯定率を令和10年度までに90%以上を維持する。(R5：82% R6：100% R7：100%)

3 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成

(1) 学校生活全体を通して、生徒の自己肯定感や自己効力感や自己有用感を醸成する。

ア 授業だけでなく、行事や生徒会活動、ホームルーム活動などを通して、集団の中で人と調和し成功体験を得られるよう、生徒が主体となる活動を支援する。

イ 社会に参画するためのコンピテンシーを育成するため、生徒の自己評価を推進させる。

※生徒向け学校教育自己診断における「気軽に相談できる先生がいる」の肯定率を令和10年度までに90%以上とする。(R5：89% R6：87% R7：84%)

※生徒向け学校教育自己診断における「学校へ行くのは楽しい」の肯定率を令和10年度までに80%以上とする。(R5：83% R6：76% R7：74%)

※生徒向け学校教育自己診断における「必要なコンピテンシーが身についている」の肯定率を令和10年度までに80%以上とする。(R7初：78%)

※生徒向け学校教育自己診断における「自分が『頑張った』『役に立った』と感じる」の肯定率を令和10年度までに70%以上とする。(R7初：64%)

(2) 生命の尊さに気づかせ、自他を認める態度や人格を育成し、社会の一員としての自覚と責任を醸成する。

ア 様々な人権問題の解決をめざし、人権教育に総合的に取り組み、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。

イ 心豊かな「社会の一員」となるよう、他者や地域等と連携しながら多様な価値観を育む教育を推進する。

ウ 災害時等に生徒が自他の命を守ることができるよう、安全指導の充実を推進する。

※生徒向け学校教育自己診断における「命や人権の大切さを学ぶ機会」の肯定率を令和10年度までに90%以上を維持する。(R5：95% R6：92% R7：89%)

※生徒向け学校教育自己診断における「人々と関わる機会」の肯定率を令和10年度までに80%以上とする。(R5：76% R6：77% R7：79%)

※生徒向け学校教育自己診断における「災害時に対応を具体的に知らされている」の肯定率を令和10年度までに90%以上を維持する。(R5：94% R6：90% R7：93%)

4 学校運営体制の確立及び人材の育成

(1) 迅速な意思決定により、機動力のある効率的な学校運営をめざすとともに、働き方改革を推進する。

ア 「学校組織運営に関する指針」に基づき、企画会議及び桃定プロジェクト会議、運営委員会を核として位置づけた学校運営を推進する。

イ 分掌や年次会、委員会等、各組織間の連携を密にし、校務の効率化を図る。

ウ 様々な課題を抱える生徒を受け入れるため、本校の魅力を発信する組織的な取組みを推進する。

※教職員向け学校教育自己診断における項目「教職員が意欲的に取り組める環境」の肯定率を令和10年度までに90%以上を維持する。(R5：77% R6：87.5% R7：100%)

※教職員向け学校教育自己診断における項目「合理的な業務に努めている」の肯定率を令和10年度までに90%以上を維持する。(R7初：100%)

※令和10年度までに、入学生／在校生を45人以上／130人以上とする。(R5：45人／108人 R6：31人／109人 R7：48人／120人)

(2) 次代を支える教員（ミドルリーダー）の育成を図る。

ア OJTや教員研修などを通して、人材の育成を図る。

※経験の少ない教職員を対象とした研修や懇話会を年5回以上実施し、肯定率90%以上を維持する(R6：5回、100% R7：7回、100%)

※教職員向け学校教育自己診断「研修や管理職等との相談が教員力の向上に生かされている」肯定率を令和10年度までに90%以上を維持する。(R7初：100%)

※教職員向け学校教育自己診断「研修の成果を他の教職員に伝える機会」肯定率を令和10年度までに85%以上を維持する。(R5：70% R6：81% R7：93%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 7 年度値〕	自己評価
1 確かな学力の育成及び教員の授業力の向上	(1)授業改善に取り組み、主体的に学習する力を身に付けさせる。 ア・教科を通じて育てたいコンピテンシーを観点別学習評価とともに生徒自身による自己評価など様々な評価の充実に向けた組織的な取組みを推進する。 イ・協働学習を軸とした生徒が主体的に学びに向かう授業を展開するために組織的な取組みを推進する。 ウ・授業アンケート等を効果的に活用し、1人1台端末の活用や校内研修や公開授業など、教員の授業力向上に向けた取組みを進める。	(1) ア・教員が育成したいコンピテンシーに焦点を当てた授業を活性化し、生徒が実感できるよう教員研修を推進する。 イ・生徒の主体的学びを促進するため、「よい授業」を定義・共有し、授業改善の方向性を明確化する。さらに、協働学習を軸とした授業づくりを推進し、事例検討を通じて組織的な基盤を構築する。 ウ・授業改善に向けた意見交換や事例共有を促進し、教員間の協働を強化するため、授業について日常的に話し合える環境を整備する。	(1) アイウ ・生徒向け学校教育自己診断における「授業は面白いと感じる」の肯定率 85%以上とする。〔82%〕 ・生徒向け学校教育自己診断における「主体的に活動する時間がある」の肯定率 80%以上を維持する。〔85%〕 ・教員向け学校教育自己診断における「コンピテンシーを意識させた授業や行事」の肯定率 90%以上とする。〔100%〕	
2 キャリア教育及び進路指導の充実	(1)キャリア教育を推進するため、カウンセリング及びガイダンス機能の充実に取り組む。 イ・一人ひとりの希望する進路を実現するため、適切な進路情報を提供し、生徒一人ひとりに将来像を確立させる。 ウ・日本語指導の必要な生徒の対応として、日本語指導の授業を充実させるための組織的な取組みを推進する。	(1) イ ・単位制の特性を踏まえ、個別最適化された進路情報を提供するため、生徒・保護者向け説明会を年次別実施する。 ・卒業予定生が自身の強みや適性を生かした進路を選択できるための講座を開講する。 ・在校生が進路をイメージしやすいよう、卒業生の進路先を取材し、ロールモデル記事を配信する。 ウ ・教員が誰でも取組める日本語指導の授業を開講し、指導経験を共有する環境を整備する。さらに、教材を改善し、授業内容のパッケージ化させる。 ・生徒の身につけるべき行動指標（桃谷 Can-Do リスト）を整理して、年次ごとの到達目標を作成する。	(1) イ ・生徒向け学校教育自己診断における「進路や社会のルールについて考える」の肯定率を 85%以上とする。〔84%〕 ・生徒向け学校教育自己診断における「教育情報を提供する努力をしている」の肯定率 85%以上を維持する。〔87%〕 ウ ・教員向け学校教育自己診断における「生徒や保護者のニーズにあった特色がある」の肯定率 90 % 以上を維持する。〔100%〕 ・教員向け学校教育自己診断における「日常的によく話し合っている」の肯定率 90% 以上を維持する。〔100%〕	
3 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成	(1)学校生活全体を通して、生徒の自己肯定感や自己効力感や自己有用感を醸成する。 イ・社会に参画するためのコンピテンシーを育成するため、生徒の自己評価を推進させる。 (2)生命の尊さに気づかせ、自他を認める態度や人格を育成し、社会の一員としての自覚と責任を醸成する。 ウ・災害時等に生徒が自他の命を守ることができるよう、安全指導の充実を推進する。	(1) イ・授業や行事を通じて生徒の満足度と帰属意識を高めるため、組織全体で継続的なコンピテンシー育成を推進し、校内実践マニュアルを整備する。 (2) ウ・併置する通信制の課程との連携を含めた実践的な防災・避難訓練を実施するとともに、校内掲示等、安全対策を充実させる。	(1) イ ・生徒向け学校教育自己診断における「授業や行事を通して、社会に必要な能力(コンピテンシー)が身についている」の肯定率を 80%以上とする。〔79%〕 ウ・生徒向け学校教育自己診断における「学校で地震や火災などの災害がおこった場合、どのような行動をとればよいか、具体的に知らされている」の肯定率 90%以上を維持する。〔93%〕	

府立桃谷高等学校 定時制の課程

4 学校運営体制の確立及び人材の育成	(1) 迅速な意思決定により、機動力のある効率的な学校運営をめざすとともに、働き方改革を推進する。 イ・分掌や年次会、委員会等、各組織間の連携を密にし、校務の効率化を図る。 ウ・様々な課題を抱える生徒を受け入れるため、本校の魅力を発信する組織的な取組を推進する。 (2) 次代を支える教員(ミドルリーダー)の育成を図る。 ア・OJT や教員研修などを通して、人材の育成を図る。	(1) イ ・業務負担と責任を適切に分散するため、校内体制や人事体制を見直し、年休取得を積極的に促す。 ・業務を効率的かつ効果的に進めるため、タスクスケジュールの整理を徹底し、資料や業務マニュアルの作成・保管を促進する。 ウ・フリースクール構想チームを中心に、学校の特色や活動の様子を SNS で発信する。また、入学生が出身校を訪問する企画を立案・実施し、広報を強化する。 (2) ア・経験の少ない教職員を対象とした OJT や教員の研修を実施する。また、校外研修等の成果を伝達する機会を設ける。	(1) イ ・年間の時間外 在校等時間が 720 時間を超える教育職員をゼロにする。〔初〕 ・年次有給休暇の年間平均取得日数を 12 日以上にする。〔初〕 ・ストレスチェック総合健康リスク 95 未満を維持する。〔86%〕 ・教職員向け学校教育自己診断における項目「教職員が意欲的に取り組める環境」の肯定率 80%以上を維持する。〔87.5%〕 ・教職員向け学校教育自己診断における項目「合理的な業務に努めている」の肯定率 90%以上を維持する。〔100%〕 ウ・入学者数 45 名以上を維持する。〔48 名〕 (2) ア・OJT や自主研修を年5回以上実施し、肯定率を 85%以上とする。〔7回、100%〕 ・教職員向け学校教育自己診断「研修の成果を他の教職員に伝える機会」肯定率 85%以上を維持する。〔93%〕	